

中小企業地域資源
活用促進法に基づく

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



ふるさと名物
Furusato Meibutsu



すながわ
北海道砂川市
が応援するふるさと名物

“Sweet Road お菓子で花咲くまち物語”
～すながわスイーツロード～
©すながわスイーツ




ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

地域の
プロフィール

◆安心して心豊かに、いきいき輝くまち

すながわ 北海道砂川市

 札幌から車で約100分(高速道路45分)

 札幌から特急JRで約50分



砂川市は、日本一長い直線道路国道12号線が南北を縦貫し交通の要衝とされ、古くは河川を利用した木材の流送や貯木が行われていました。

また、周辺地域の炭鉱から産出された石炭の積み出しや、東洋一の肥料工場として農業を支える肥料の生産拠点として発展しました。

▼国道12号線(上至札幌市、下至旭川市)



▲初夏の遊水地オアシスパーク

「公園の中に都市がある、美しいまちづくり」を推進し、快適な市民生活を実現するアメニティ・タウンの整備に努めることにより、市民一人当たりの都市公園面積は208.46平方メートルと日本一を誇っています。

また、砂川市の南西に位置する100haを有する遊水地オアシスパークは、その周囲をジョギングやサイクリング等で満喫できる市民に愛される憩いの場となっています。

◆すながわスイーツ



砂川市は、周辺地域の炭鉱や東洋一の肥料工場で栄え、そこで働く方々が疲れた体を癒すため甘いものを好んで食べ、また友人や家族への喜ばれるお土産として、甘いお菓子が重宝されたことなどが、砂川市の菓子業が発展した理由です。



砂川に息づくお菓子の数々は、菓子職人の弛みない努力と良質な素材によって、ケーキを始めとする洋菓子、和菓子、パン類、冷菓など、多くの魅力的なお菓子に変貌を遂げ、日々輝くたくさんの方々の元気の素となっており、趣向を凝らした数々のお菓子は、場所を問わず様々な局面で必要とされています。

現在では12社が16の店舗を展開し、中には創業100年を超える老舗や全国的な知名度を持つまでに至った店舗が生まれるなど、砂川市のブランドとして定着しています。



また、その他飲食店や喫茶店でもお菓子をメニューに加えた商品展開もされ、菓子業を専門としなくとも幅広く砂川のお菓子として市内に限らず多くの方々に提供されています。

これからも多くの方々に元気に、そして友人や家族の幸せをもたらすものとして砂川のまちに深く根ざし、創意工夫が施されたお菓子の数々は「すながわスイーツ」として、市民や砂川を訪れるたくさんの方々に愛され続けるとともに、更なる品質の向上を遂げ、北海道内から全国へと発信されています。



砂川市の取り組み

◆すながわスイートロード協議会

～Sweet Road お菓子が花咲くまち物語～

「スイート」とは「甘い」に加え「魅力的」「心地よい」「ステキな」そして「お菓子」を意味する豊かで幸せな言葉です。また、「ロード」は、国道12号線を指すほか、たくさんの方々を豊かで幸せにするまちを目指し、そこにたどり着くまでの「物語」「道」という意味もあります。

「すながわスイートロード」は「すながわスイーツ」をまちづくりのコンセプトとして位置付け、各種市民活動や情報発信を通じてブランド化を図るものです。

砂川市は、お菓子を通じたまちづくりを平成12年に策定された砂川市第5期総合計画に「すながわスイートロード構想」として位置づけ、平成14年度に菓子店組合等の関係者と協力し「すながわスイートロード協議会」を発足しました。当協議会では官民一体となり、広報宣伝やイベント企画のほか、お菓子作り体験事業など市民活動を通じてお菓子を有効活用したまちづくり活動を行っています。



すながわスイートロード



▲すながわスイートロード協議会のメンバー

◆広報宣伝活動



▲各菓子店のイラストが書かれたマップ



▲夏季のみ国道12号線沿いに設置するバナー▲

菓子店、菓子職人の創意工夫によるスイーツの魅力向上はもとより、官民一体となって「すながわスイートロード」による砂川市の魅力向上に努めています。

具体的な活動として、各菓子店を紹介するパンフの作成・配布や、国道12号線沿いに設置する夏季限定のバナー設置、Facebookによる情報発信のほか、市内外で開催されるイベントへの積極的な出店を行い、広く「すながわスイーツ」を活用した砂川市の宣伝活動を実施しています。

砂川市の取り組み

◆スイーツフェスタ

すながわスイートロード協議会では毎年10月、「すながわスイーツ」を活用して砂川市の魅力を発信する「スイーツフェスタ」を砂川市地域交流センターゆうで開催しています。

スイーツフェスタでは市内の菓子店が結集し、季節のお菓子や自慢の逸品、ここでしか食べることのできない限定品がお披露目されるとともに、「お菓子の家づくり(平成27年はお菓子の城づくり)」や一般応募からなるフォトコンテストなどの多彩なイベントが盛り込まれ、毎年砂川市内外から500名の来場を実現しています。



▲スイーツフェスタの様子



▲お菓子の城づくりの様子



▲野外で行うパン作り体験事業の様子



▲商店街に配られるハロウィン用のカボチャ

◆お菓子作り体験事業、その他の取り組み

当協議会では、「すながわスイーツ」を活用した体験事業が数多く実施されています。ネイパル砂川(北海道立青少年体験活動支援施設)を中心に「すながわスイートロード協議会」との連携の下、市内パティシエを講師として野外で行うパン作り体験事業や、季節の農産物の収穫体験と合わせた事業を通じた食育の普及などを目的としています。

また、その他の取り組みとして、市内各団体や商店会と連携し、ハロウィン用カボチャの配布やイベントの協力、催事におけるお菓子の提供、菓子店とともに札幌市やサービスエリアなどで開催されるイベントへの販売出店など、市内外に問わず宣伝活動を行い、「すながわスイーツ」の普及を図るとともに、積極的なまちづくりを推進しています。

砂川市長からのメッセージ

砂川市は、北海道でも決して知名度は高いとは言えず、人口約18,000人の小さなまちです。

しかし、市内の各菓子店で構成する菓子組合では、営利を目的とせず、40年近く前からお菓子作りや講習会などの活動を通じて長い間地域に貢献し、まちに元気を分けてくださっております。

その元気をお借りして、砂川をもっと元気に明るくしていこうと、平成12年に策定されました砂川市第5期総合計画には「すながわスイートロード構想」として盛り込んでいます。

現在でも、魅力的な「すながわスイーツ」は、人々を惹きつけて止まず、まち全体に元気をもたらしめています。

これからも、まちを元気に明るく、そして魅力に惹きつけられるたくさんの方々にも“甘く”“ステキな”幸せが訪れることを願い、「すながわスイーツ」を砂川市のふるさと名物として応援することをここに宣言します。



砂川市長 善岡 雅文